

平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月10日

上場会社名 シーマ
 コード番号 7638 URL <http://www.cima-ir.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 資本政策部長
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月13日

(氏名) 白石 幸栄
 (氏名) 柳田 純克

TEL 03-3567-8098

上場取引所 JQ

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	5,840	—	278	—	261	—	117	—
20年3月期第2四半期	5,762	19.7	448	85.1	479	80.9	252	87.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	0.64	—
20年3月期第2四半期	1.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%		円 銭	%
21年3月期第2四半期	9,116	—	5,596	61.4	—	30.46	
20年3月期	8,761	—	5,662	64.6	—	30.82	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 5,596百万円 20年3月期 5,662百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	—	—	1.00	1.00
21年3月期	—	—	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,165	10.3	1,122	11.0	1,086	2.3	552	△3.9	3.00

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無
 新規 — 社(社名)) 除外 — 社(社名))
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注)詳細は6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等)の変更に記載されるもの
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注)詳細は6ページ「【定性的情報・財務諸表等】4. その他」をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 183,765,644株 20年3月期 183,765,644株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 636株 20年3月期 605株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 183,765,025株 20年3月期第2四半期 183,765,152株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報および合理的であると判断する一定の前提のもとにおいて、実際の業績などは、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用に当たっての注記事項などについては、5ページ「【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。
2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

(参考) 平成21年3月期第2四半期(3か月)の連結業績
(平成20年7月1日～平成20年9月30日)

(百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(3か月)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	3,139	—	215	—	207	—	97	—
20年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
21年3月期第2四半期	0	53	—	—
20年3月期第2四半期	—	—	—	—

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

(前年同四半期の増減率および前年同四半期の金額は、参考として記載しています。)

当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日～平成20年9月30日）におけるわが国経済は、米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な信用収縮が懸念される中、個人消費の停滞や設備投資抑制の動きが見られるなど、国内景気の減速懸念は一段と高まってまいりました。

このような経済状況のもと、当社グループ（当社および連結子会社）の主力とするプライダルジュエリー事業において、8月の売上は、月間の売上計画を2.2%上回り、9月の売上は、計画に対して3.1%下回りましたが、10月に持ち越された受注残が前年同月比で15.4%増となるなど、業績は徐々に改善しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高58億40百万円（前年同四半期比1.3%増）、営業利益2億78百万円（同37.8%減）、経常利益2億61百万円（同45.6%減）、四半期純利益1億17百万円（同53.5%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における連結業績は、予想に対して売上高が6.0%減、営業利益が19.3%減、経常利益が20.2%減、四半期純利益が23.9%減となりました。当第2四半期連結累計期間に出店諸費用（新規7店舗と移転3店舗分）が集中したことと、役員退職慰労金支払により繰延税金資産が減少したことなどが、前年に比べて利益を圧迫した要因です。

通期業績予想につきましては、新店舗の順調な立ち上がりによる収益への貢献も期待できるため、当期下半期の業績挽回が可能と判断し、平成20年5月9日に公表した「平成20年3月期 決算短信」における業績予想（連結、個別）を据え置くこととしました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりです。

<プライダルジュエリー事業>

主力のプライダルジュエリー事業（銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベルの3ブランド）における当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が56億84百万円（前年同四半期比1.4%増）、営業利益が2億92百万円（同37.1%減）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間の売上総利益率は、67.3%となり、高い水準を維持しました。

プライダルジュエリー事業における当期8月および9月の売上が回復基調へと転換したことに加えて、下半期に向けて営業体制の強化を進めていることなどから、クリスマス商戦を含む下半期の業績挽回をはかる所存です。

当第2四半期連結累計期間におけるプライダルジュエリー事業の主な施策などは、以下のとおりです。

1) 新店舗10店（移転3店舗含む）開設

第1四半期連結会計期間に開設した5店舗（移転3店舗含む）に加え、当第2四半期連結会計期間に以下の5店を開設しました。

- 7月5日 「エクセルコダイヤモンド大宮店」を開設
- 7月9日 「エクセルコダイヤモンド名駅店」を開設
- 7月26日 「エクセルコダイヤモンド仙台店」を開設
- 8月23日 「エクセルコダイヤモンド広島店」を開設
- 9月27日 「エクセルコダイヤモンド福井店」を開設

2) 商品力強化

第1四半期連結会計期間に発表した商品に加え、当第2四半期連結会計期間に以下の新商品を発表しました。

(銀座ダイヤモンドシライシ)

- ・新作セットリング“*Aqua Nina*（アクアニーナ）”を7月23日に発表、発売直後より人気商品となり、2年間続いた1番人気商品を超え、1位を継続。

(エクセルコダイヤモンド)

- ・新作ティアラ2点“*Centifolia*（センティフォリア）”および“*Naiad*（ナイアード）”を9月に発表。
- ・新作セットリング“*St. Hubert*（サンテュベール）”およびエクセルコブランド初のメンズマリッジリング“*Chevalier*（シュバリエ）”を9月23日に発表。

(ホワイトベル)

- ・オリジナルマリッジリングシリーズ“*Happy Pattern*（ハッピーパターン）”を8月30日に発表。

3) 提携先ホテル・式場数の増大と提携関係のさらなる強化

4) ギフト販売の好調な伸び

(提携先の増加などによる販売網の拡充により、売上は前年同四半期比で34.2%増の75百万円となりました。)

5) ティアラ・レンタルサービスの顕著な伸び

（提携先数は前期末より17社増加し、売上は前年同四半期比で271.3%増の5百万円となりました。）

以上により、当第2四半期連結累計期間におけるブランド別売上は、銀座ダイヤモンドシライシが35億45百万円（前年同四半期比6.3%減）、エクセルコダイヤモンドが17億70百万円（同16.2%増）、ホワイトベルが3億42百万円（同20.7%増）となりました。

銀座ダイヤモンドシライシにおける売上減の主な要因は、国内景気の低迷に加え、第1四半期連結会計期間に実施した3店舗（「宇都宮店」、「横浜モアーズ店」、「池袋店」）の移転にともない、当時の既存店舗3店において、販売休止期間が発生したことなどによるものです。

また、ブライダルジュエリー事業における商品部売上など本社関連「その他」の売上は、26百万円（前年同四半期比96.3%増）となりました。

（以下の①ブランド別売上高をご参照願います。）

<ウエディングプロデュース事業>

ウエディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高1億56百万円（前年同四半期比1.9%減）、営業損失13百万円（前年同四半期営業損失：16百万円）となりました。

①ブランド別売上高

事業の種類別セグメントの名称	ブランドの名称など	当第2四半期連結累計期間（千円） （自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）	前年同四半期比（%）	構成比（%）
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ	3,545,134	93.7	60.7
	エクセルコダイヤモンド	1,770,433	116.2	30.3
	ホワイトベル	342,509	120.7	5.9
	その他（注）2	26,118	196.3	0.4
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘（注）3	156,013	98.1	2.7
合 計		5,840,209	101.3	100.0

- （注）1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
 2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、商品部売上など本社関連の売上となっています。
 3. 「オリーブの丘」は、株式会社トゥインクルスターのブランド名です。
 4. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

②販売・サービス別売上高

事業の種類別セグメントの名称	販売・サービスの名称など	当第2四半期連結累計期間（千円） （自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）	前年同四半期比（%）	構成比（%）
ブライダルジュエリー事業	ブライダルジュエリー販売	5,474,116	100.9	93.7
	ファッションジュエリー販売	110,692	101.9	1.9
	ギフト販売	75,141	134.2	1.3
	ウエディング送客サービス	18,553	171.0	0.3
	その他（注）2	5,692	398.6	0.1
ウエディングプロデュース事業	ウエディングプロデュース など	156,013	98.1	2.7
合 計		5,840,209	101.3	100.0

- （注）1. 上記の金額には、消費税等は含まれていません。
 2. ブライダルジュエリー事業の「その他」は、ティアラ・レンタルサービスなどの売上となっています。
 3. セグメント間の取引については、相殺消去しています。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

（資産の部）

流動資産は、新規出店などにより商品及び製品が増加したものの、現金及び預金、繰延税金資産が減少したため、前連結会計年度末に比べて98百万円減少して64億25百万円となりました。また、固定資産は、同じく新規出店にともなう有形固定資産、敷金及び保証金などの増加により、前連結会計年度末に比べて4億53百万円増加し、26億91百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて3億54百万円増加し、91億16百万円となりました。

（負債の部）

流動負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金、未払金及び未払費用、前受金などの増加により、前連結会計年度末に比べて3億22百万円増加して31億95百万円となりました。固定負債は、長期借入金、長期未払金などの増加により、前連結会計年度末に比べて98百万円増加し、3億24百万円となりました。この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて4億21百万円増加し、35億20百万円となりました。

（純資産の部）

純資産合計は、利益剰余金などの減少により、前連結会計年度末に比べて66百万円減少し、55億96百万円となりました。

結果として、自己資本比率は61.4%となり、当第2四半期連結会計期間末の1株当たり純資産額は30円46銭となりました。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の四半期末残高は5億83百万円となり、前連結会計年度末に比べて5億56百万円減少しました。各キャッシュ・フローの状況と要因は、以下のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億37百万円の支出となりました。営業収入は60億25百万円（前年同四半期59億47百万円）と増加したものの、人件費の支出、その他の営業支出、法人税等の支払額などが増加した結果です。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、4億45百万円の支出となりました。新規出店にともなう固定資産の取得による支出と、敷金及び保証金の差入による支出などによる結果です。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2億26百万円の収入となりました。短期借入れによる収入、短期借入金の返済による支出、配当金の支払額などによる結果です。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く主な事業環境であるブライダルジュエリー市場は、企業間競争の激化と国内景気低迷により、厳しさが今後も予想されますが、当社グループの当期の連結会計年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日）における業績は、ダイヤモンドをコアとした独自のビジネスモデルの優位性により、堅調に推移する見通しです。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、ブライダルジュエリー事業を中心に、当社グループの各事業・各店舗の特長を最大限に生かした販売促進・広告宣伝活動を行うとともに、社員教育の充実による質の高いサービスを提供し、顧客満足度の向上を目指します。

また、ウェディングプロデュース事業を展開する連結子会社、株式会社トゥインクルスターの業績は、平成20年9月に議決権を100%取得した上で、同社の若手人材を専務取締役に登用し、営業体制の強化および経費削減をはかるとともに、新規提携先の拡大などによる収入増が期待されることから、通期での黒字化を見込んでいます。

その他、上記以外の新規事業、M&Aも含めた新たな収益基盤の構築も機動的に検討していきます。

以上により、平成21年3月期の通期業績予想につきましては、平成20年5月9日に公表した「平成20年3月期 決算短信」における業績予想（連結、個別）から変更はありません。

※ 本資料の上記の予想は、発表日現在において、入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している固定資産については、連結会計年度にかかる減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっています。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

1. 四半期財務諸表に関する会計基準の適用

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

2. 棚卸資産の評価に関する会計基準の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として個別法または総平均法による原価法によっていましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことにもない、主として個別法または総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下にもとづく簿価切下げの方法）により算定しています。

これによる営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	583,062	1,139,525
受取手形及び売掛金	570,721	586,762
商品及び製品	5,026,071	4,534,738
前払費用	96,423	94,276
繰延税金資産	15,745	54,979
その他	135,619	119,881
貸倒引当金	△1,963	△5,490
流動資産合計	6,425,679	6,524,673
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	1,028,755	729,298
車両運搬具(純額)	437	488
工具、器具及び備品(純額)	447,257	348,642
建設仮勘定	4,143	7,393
有形固定資産合計	1,480,594	1,085,823
無形固定資産		
ソフトウェア	15,301	15,967
電話加入権	5,504	5,504
無形固定資産合計	20,806	21,471
投資その他の資産		
長期前払費用	53,840	67,996
敷金及び保証金	1,095,271	1,024,793
繰延税金資産	38,949	35,463
その他	1,687	1,678
投資その他の資産合計	1,189,749	1,129,931
固定資産合計	2,691,150	2,237,226
資産合計	9,116,830	8,761,900

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	468,268	340,138
短期借入金	1,675,084	1,300,061
1年内返済予定の長期借入金	69,140	62,056
未払金及び未払費用	511,158	437,126
未払法人税等	118,449	336,718
前受金	322,419	298,628
その他	30,802	97,993
流動負債合計	3,195,322	2,872,722
固定負債		
長期借入金	105,360	66,944
退職給付引当金	82,936	72,924
長期未払金	136,491	86,447
固定負債合計	324,787	226,316
負債合計	3,520,110	3,099,039
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,743	1,777,743
資本剰余金	1,536,643	1,536,643
利益剰余金	2,280,794	2,347,411
自己株式	△69	△68
株主資本合計	5,595,110	5,661,728
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△99	△99
繰延ヘッジ損益	—	△442
為替換算調整勘定	1,709	1,675
評価・換算差額等合計	1,609	1,133
純資産合計	5,596,719	5,662,861
負債純資産合計	9,116,830	8,761,900

(2) 四半期連結損益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	5,840,209
売上原価	1,944,409
売上総利益	3,895,800
販売費及び一般管理費	3,617,316
営業利益	278,484
営業外収益	
受取利息	292
雑収入	4,198
営業外収益合計	4,491
営業外費用	
支払利息	16,690
為替差損	4,863
雑損失	220
営業外費用合計	21,774
経常利益	261,201
特別利益	
貸倒引当金戻入額	3,559
役員退職慰労引当金戻入額	1,500
特別利益合計	5,059
特別損失	
固定資産除却損	8,283
特別損失合計	8,283
税金等調整前四半期純利益	257,977
法人税、住民税及び事業税	105,080
法人税等調整額	35,749
法人税等合計	140,829
四半期純利益	117,148

(第2四半期連結会計期間)

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)
売上高	3,139,433
売上原価	1,061,732
売上総利益	2,077,701
販売費及び一般管理費	1,862,522
営業利益	215,179
営業外収益	
受取利息	292
雑収入	3,757
営業外収益合計	4,049
営業外費用	
支払利息	8,945
為替差損	3,260
雑損失	20
営業外費用合計	12,226
経常利益	207,002
特別利益	
貸倒引当金戻入額	2,060
特別利益合計	2,060
税金等調整前四半期純利益	209,062
法人税、住民税及び事業税	97,304
法人税等調整額	13,973
法人税等合計	111,278
四半期純利益	97,783

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	6,025,679
原材料又は商品の仕入れによる支出	△2,454,581
人件費の支出	△1,327,866
その他の営業支出	△2,249,255
小計	△6,024
利息及び配当金の受取額	232
利息の支払額	△17,345
その他の収入	6,157
その他の支出	△223
法人税等の支払額	△320,351
営業活動によるキャッシュ・フロー	△337,553
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△371,269
無形固定資産の取得による支出	△2,383
敷金及び保証金の差入による支出	△72,802
敷金及び保証金の回収による収入	1,324
その他	△339
投資活動によるキャッシュ・フロー	△445,470
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	600,026
短期借入金の返済による支出	△225,000
長期借入れによる収入	100,000
長期借入金の返済による支出	△69,442
自己株式の取得による支出	△1
配当金の支払額	△178,964
財務活動によるキャッシュ・フロー	226,617
現金及び現金同等物に係る換算差額	△56
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△556,463
現金及び現金同等物の期首残高	1,139,525
現金及び現金同等物の四半期末残高	583,062

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

(4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事 業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,684,196	156,013	5,840,209	—	5,840,209
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	230	489	719	△719	—
計	5,684,426	156,502	5,840,929	△719	5,840,209
営業利益又は営業損失(△)	292,215	△13,731	278,484	—	278,484

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

[所在地別セグメント情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

[海外売上高]

当第2四半期連結累計期間（自平成20年4月1日 至平成20年9月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期にかかる財務諸表

(1) 中間連結損益計算書

区分	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)		
	金額 (千円)		百分比 (%)
I 売上高		5,762,662	100.0
II 売上原価		2,064,506	35.8
売上総利益		3,698,156	64.2
III 販売費及び一般管理費		3,250,152	56.4
営業利益		448,004	7.8
IV 営業外収益			
1. 受取利息	796		
2. 為替差益	40,840		
3. その他	1,256	42,893	0.7
V 営業外費用			
支払利息	11,150	11,150	0.2
経常利益		479,747	8.3
VI 特別利益			
貸倒引当金戻入益	66	66	0.0
VII 特別損失			
固定資産除却損	83	83	0.0
税金等調整前中間純利益		479,730	8.3
法人税、住民税及び事業税	214,400		
法人税等調整額	13,132	227,533	3.9
中間純利益		252,197	4.4

(2) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
1. 営業収入	5,947,555
2. 商品の仕入支出	△2,786,460
3. 人件費支出	△1,147,330
4. その他の営業支出	△1,944,683
小計	69,081
5. 利息の受取額	637
6. 利息の支払額	△11,748
7. その他収入	6,656
8. 法人税等の支払額	△310,074
営業活動によるキャッシュ・フロー	△245,447
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
1. 有形固定資産の取得による支出	△45,601
2. 無形固定資産の取得による支出	△4,097
3. 敷金保証金等の取得による支出	△47,362
4. 敷金保証金等の解約による収入	7,446
5. その他投資による支出	△20
投資活動によるキャッシュ・フロー	△89,635
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
1. 短期借入による収入	400,000
2. 短期借入金の返済による支出	△120,000
3. 長期借入金の返済による支出	△26,628
4. 自己株式取得による支出	△5
5. 配当金の支払額	△153,964
財務活動によるキャッシュ・フロー	99,402
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	194
V 現金及び現金同等物の減少額	△235,485
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,726,388
VII 現金及び現金同等物の中間期末残高	1,490,903

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前中間連結会計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

	ブライダル ジュエリー事業 (千円)	ウエディング プロデュース事業 (千円)	計 (千円)	消去または全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	5,603,594	159,067	5,762,662	—	5,762,662
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	5,603,594	159,067	5,762,662	—	5,762,662
営業費用	5,139,321	175,336	5,314,658	—	5,314,658
営業利益又は営業損失(△)	464,272	△16,268	448,004	—	448,004

(注) 1. 事業区分の方法

事業は、商品の系列および市場の類似性を考慮して区分しています。

2. 各区分に属する主要なブランド

事業区分	主要ブランドなど
ブライダルジュエリー事業	銀座ダイヤモンドシライシ、エクセルコダイヤモンド、ホワイトベル
ウエディングプロデュース事業	オリーブの丘

[所在地別セグメント情報]

前中間連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

[海外売上高]

前中間連結累計期間（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。